

## 2025年度 授業コード: 12201300

授業科目	英語教科教育法Ⅴ				実務家教員担当科目	-					
単位	2	履修	選択	開講年次	4	開講時期	前期				
担当教員	太田 かおり										
授業概要	英語教科教育法Ⅰ～Ⅳや専門教育科目で学んだことを踏まえ、学習指導要領に即した授業の目標設定、目標達成に向けた授業の展開方法、授業内での教師-生徒間や生徒間でのコミュニケーションの取り方などについて、総合的に理解を深めることを目標とします。同時期に実施される教育実習への準備と模擬授業を実施し、授業者に対する相互評価および具体的な指導助言を行う。教育実習での実践的な学びの成果を後半の授業内で共有し合うことにより、中学校・高等学校における英語科教育の在り方について客観的な視点で考察することができるようになります。さらに、理論的な枠組みを用いながら今後の英語教育の方向性について根拠に基づいた意見が持てるようになることを目指します。										
授業形態	対面授業			授業方法	ディスカッション、発表、模擬授業						
<b>学生が達成すべき行動目標</b>											
標準的 レベル	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業展開に則した学習指導案を作成することができる。</li> <li>2. 学習指導案に即した授業を行うことができる。</li> <li>3. 効果的な配布資料を作成することができる。</li> <li>4. 電子黒板やパソコン等の IT 機器を効果的に活用して授業を行うことができる。</li> <li>5. 英語に関する確かな知識と運用能力を用いて、英語による授業が展開できる。</li> <li>6. 英語教師への志と資質をさらに高めることができる。</li> </ol>										
理想的 レベル	<p>以下の項目を高度なレベルで行うことができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業展開に則した学習指導案を作成することができる。</li> <li>2. 学習指導案に即した授業を行うことができる。</li> <li>3. 効果的な配布資料を作成することができる。</li> <li>4. 電子黒板やパソコン等の IT 機器を効果的に活用して授業を行うことができる。</li> <li>5. 英語に関する確かな知識と運用能力を用いて、英語による授業が展開できる。</li> <li>6. 英語教師への志と資質をさらに高めることができる。</li> </ol>										
<b>評価方法・評価割合</b>											
評価方法		評価割合 (数値)			備考						
試験											
小テスト											
レポート		30			目指す教師像に関するレポート課題						
発表 (口頭、プレゼンテーション)		30			学習指導案と模擬授業						
レポート外の提出物		20			授業や模擬授業後の振り返りフォーム						
その他		20			ディスカッションへの積極的な参加と英語力向上に向けた取り組み						
<b>カリキュラムマップ (該当 DP) ・ナンバリング</b>											
DP1	○	DP2	-	DP3	-	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	EN44113J
学習課題 (予習・復習)										1回の目安時間 (時間)	

<p>(予習)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 模擬授業の範囲を事前に予習する</li> <li>・ 模擬授業担当者は学習指導案・配布資料・板書計画(PPT 含む)を作成する</li> </ul> <p>(復習)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業で学んだことや改善点を振り返り、今後の英語教育や英語学習に活用する</li> </ul>	4
<b>授業計画</b>	
第1回	授業ガイダンス（授業概要、授業計画、評価方法等について） 教育実習に向けた心得
第2回	教育実習に向けて、学びの目標設定と観察の視点を明確化する
第3回	学習指導案(細案)の作成方法
第4回	教材研究と学習指導案(細案)の作成
第5回	学習指導案(細案)の作成上の留意点と改善点
第6回	教材研究と授業準備①（教材分析と授業展開を考える）
第7回	教材研究と授業準備②（学習指導案・配布資料・授業用 PPT 資料・板書計画等を作成する）
第8回	模擬授業①（模擬授業 A と講評および相互評価）
第9回	模擬授業②（模擬授業 B と講評および相互評価）
第10回	模擬授業③（模擬授業 C と講評および相互評価）
第11回	模擬授業④（模擬授業 D と講評および相互評価）
第12回	教育実習での実践的な学びの成果報告(1)
第13回	教育実習での実践的な学びの成果報告(2)
第14回	教育実習での実践的な学びの成果報告(3)
第15回	これまでの学びの総括
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』（2017）</li> <li>・ 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編』（2018）</li> <li>・ 配布資料</li> </ul>
参考図 書・教材 ／データ ベース・ 雑誌等の 紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 金森憲他『英語授業ハンドブック・中学校編』大修館書店（2013）</li> <li>・ 金森憲他『英語授業ハンドブック・高校編』大修館書店（2013）</li> <li>・ 望月昭彦・磐崎弘貞・卯城祐司・久保田章（著）『新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版』大修館書店（2018）</li> <li>・ 文部科学省『中学校学習指導要領』（2016）</li> <li>・ 文部科学省『高等学校学習指導要領』（2015）</li> </ul> <p>その他、適宜授業中に紹介する。</p>
課題に対 するフィ ードバック の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導案と模擬授業には口頭でコメントおよび講評します。</li> <li>・ 模擬授業後の振り返りフォームは授業終了時に取りまとめて本人にフィードバックします。</li> <li>・ 質問事項に対しては次時の授業で回答・解説します。</li> <li>・ ディスカッションへの積極的な参加および英語力向上に向けた取り組みについては個々の取り組みを評価します。</li> </ul>

学生への メッセー ジ・コメ ント	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 模擬授業の範囲を全員予習してくること</li><li>2. 英語力強化を目指し、継続的に英単語力・英文法力・構文力を身につけるように努めること</li><li>3. 英語教育に関する新聞記事や時事問題には日頃から敏感になり、情報収集に努めること</li><li>4. 英語教師としての資質を磨き高めるため、日頃から自己研鑽に努め、ボランティア活動や英語指導には積極的に参加すること</li></ol>
----------------------------	---